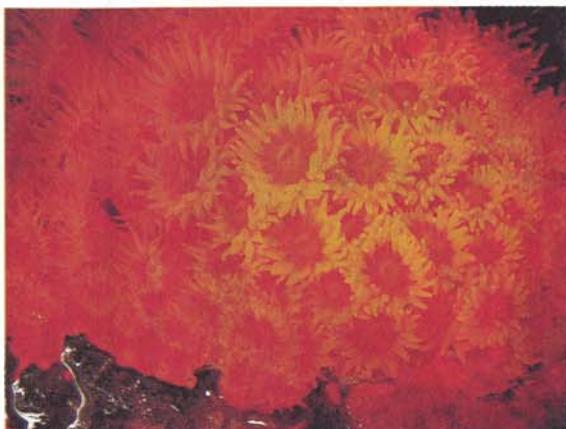


(12)

2008年(平成20年)8月27日 水曜日

イボヤギ



満開のイボヤギ
(水槽番号225)



イボヤギ
しほんだ状態の



水槽につり下げられた冷凍のミンチジュース

(京都大学技術職員)

昼間、満開にさせるために：

ランクトン代わりの餌になる、
というあんぱいだ。

よく伸びた触手
にくつつき、プ

イボヤギはイシサンゴの仲間で、波が荒くて潮の流れが速い、水深10m付近までの岩礁に生息する。サンゴ礁を造る多くのイシサンゴ類(=造礁サンゴ)は、体内に単細胞の藻類を共生させ、日光がよく当たる場所を占有して大きな群体に成長する。だが、イボヤギはこの共生藻を持つおらず、薄暗い岩棚の下面やすき間に、せいぜい10

センチほどの塊状の群体で固着している。イボヤギは、夜間に触手を伸ばしてボリップを開き、昼間はしばらく海面付近まで浮き上がって占有して大きな群集に成長する。だが、イボヤギはこの共生藻を持つおらず、薄暗い岩棚の下面やすき間に、せいぜい10

センチほどの塊状の群体で固着している。イボヤギは、夜間に触手を伸ばしてボリップを開き、昼間はしばらく海面付近まで浮き上がって占有して大きな群集に成長する。だが、イボヤギはこの共生藻を持つおらず、薄暗い岩棚の下面やすき間に、せいぜい10

京都大学白浜水族館

水族館へ行こう!

56

山本 泰司

つてあまり都合がよくな。

餌やりは昼間に限っているし、しほんでいる姿よりは、触手が十分に伸びた活動状態の方が見えもするし、体の造りもよく分かるからだ。

そこで餌の種類や与え方を工夫してみた。すると、イボヤギは案外素直に活動パターンを変えてくれた。しかも長生きで繁殖もしているので1993年以来、一度も補充していない。

まず朝一番に、釣りのまき餌に使われるアミから榨り出した汁を水槽に垂らしてやる。すると、これが刺激となり触手を伸

なる。ミンチは徐々にふやけ、水流によって水中を漂う。これが

つ、このミンチの塊を水槽にぶら下げたかごの中に入れてやる。ミンチは徐々にふやけ、水流によって水中を漂う。これが

ばし始める。

同時に、冷凍しておいたミンチジュース入りのペットボトルを水槽の上から逆さまにつり下げる。ミンチジュースとは、オキアミ、アミ、ペレット、魚卵などを一緒にミキサーにかけてできたミンチを海水で薄めたもの。1升のミンチジュースは6～10時間かけて水槽の中に溶け出し、餌刺激で触手の満開状態を維持させる。

さらに午前と午後に1回ずつ、このミンチの塊を水槽にぶら下げたかごの中に入れてやる。ミンチは徐々にふやけ、水流によって水中を漂う。これが